

1. 世界共用決済サービスの動向

(2) 世界共用決済サービスを実現する国際規格

銀聯は国の決済ネットワーク&精算機関。法律に則り銀行間の精算を一手に担う。

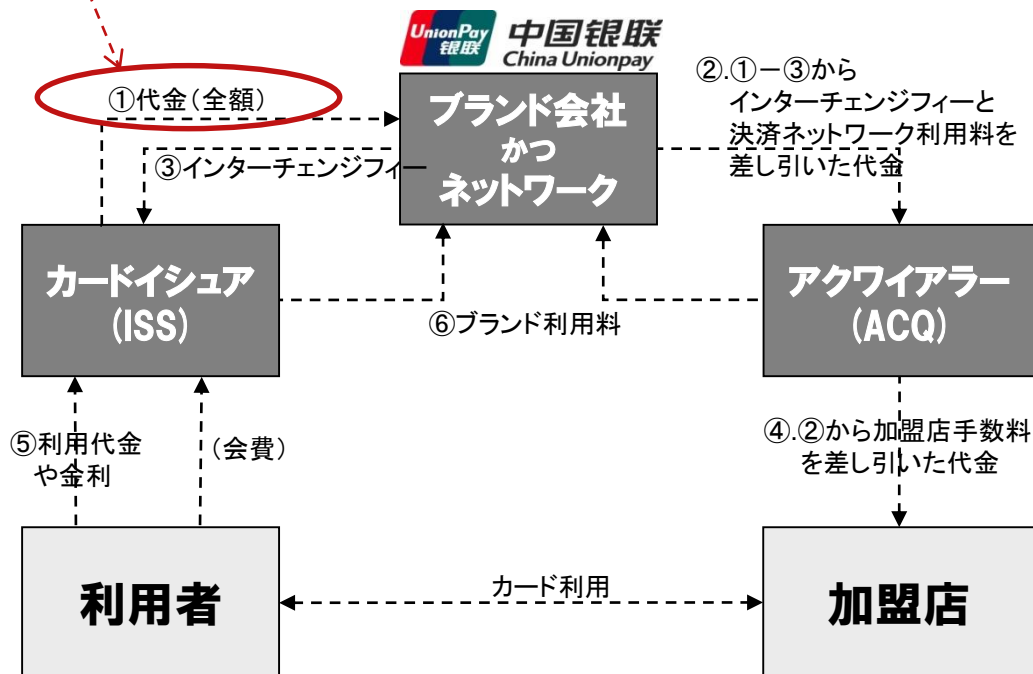
■ 銀行カードの決済スキーム (銀聯カード決済時のお金の流れ : 中国国内)

- 銀聯は国(中国人民銀行)が構築した銀行決済ネットワーク
決済サービスは元来「銀行カード」として法律に定められ銀行しか発行できない。
- 基本的にイシューは売上金額を全額銀聯に支払い、銀聯は精算機関として各精算データに従って、
中国人民銀行のアクワイアラーやイシューの
口座間で日々清算される。

銀行カードの種類

- ①デビット機能付キャッシュカード
- ②クレジットカード
- ③預金担保型クレジットカード

- イシュー、アクワイアラー、決済ネットワーク
(銀聯) の加盟店手数料分配率は、
中国人民銀行の通達にて規定。
(2016.9.6まではISS : ACQ : 銀聯 = 7:2:1
⇒2016.9.6より、ISS引下げ、ACQ自由化)
- 加盟店手数料率は、行政通達によって
業種別に定められている。
(飲食・娯楽 : 1.25%, 一般 : 0.78%, 民生 : 0.38%等
⇒2016.9.6より業態別手数料を一本化
デビットカードとクレジットカードを別に)
- 加盟店端末のコストは原則加盟店負担。
(実態は日本と同様に、アクワイアラーが負担する
ケースが多い。)



出所) 各種公開資料よりNRI作成


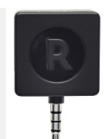









4. 決済サービスの注意点とキャッシュレス化の展望

(2) キャッシュレス化の展望

モバイルPOS (mPOS) と呼ばれるスマートフォンやタブレット端末が導入をサポート

■ モバイル(ハンドセット)を加盟店端末として活用するモバイル決済

● ドングル型スマホ端末、タブレット端末

	Square	楽天スマートパイ	Coiney	Airレジ
形状				
導入費用	無料	実質無料 (¥7,980)	無料	無料
加盟店手数料	3.25% (PAN手入力は3.75%)	3.24% or 3.74%	3.24% or 3.74%	 3.24%
アクワイアラ	三井住友カード	楽天カード	クレディセゾン	 3.74%
受付ブランド				 3.24%
入金サイクル	みずほ・SMBC: 翌営業日 その他: 毎週金曜日	楽天銀行: 翌営業日 その他: 入金依頼の翌営業日	月6回	 3.74%
振込手数料	無料	楽天銀行: 無料 その他: 210円	10万円以上: 無料 10万円未満: 200円	10万円以上: 無料 10万円未満: 200円
対応OS	iOS, Android	iOS, Android	iOS, Android	iOS

● ジャケット型スマホ端末

国内では従前より「ペイメントマイスター」「Anywhere」「ペイゲート」などジャケット型スマホ加盟店端末が展開

■ ブランド会社のチップライアビリティシフトに合わせ、スマホ決済端末もIC対応 →次頁

4. 決済サービスの注意点とキャッシュレス化の展望

(2) キャッシュレス化の展望

モバイルPOS (mPOS) でも接触型 IC 対応、非接触型 IC 対応が進む

■ 主要なモバイル加盟店端末事業者は各社ともEMV対応を発表

- Squareは2015.9.10にICリーダーの予約販売を開始



- 楽天は2014年12月に最速でIC対応を発表(9月末磁気リーダー販売終了)



- Coineyも'15.10末にIC対応を開始



Coineyターミナル

- Airレジも'15.11月よりIC対応開始



■ さらにNFC (EMVcontactless) にも対応

- SquareのNFC端末



(米国)

- PayPal HereのNFC端末



(米国)

出所) 各種報道資料よりNRI作成

■ NFCモバイルを加盟店端末として活用も

- Suicaはスマホを決済端末とする試行を開始

